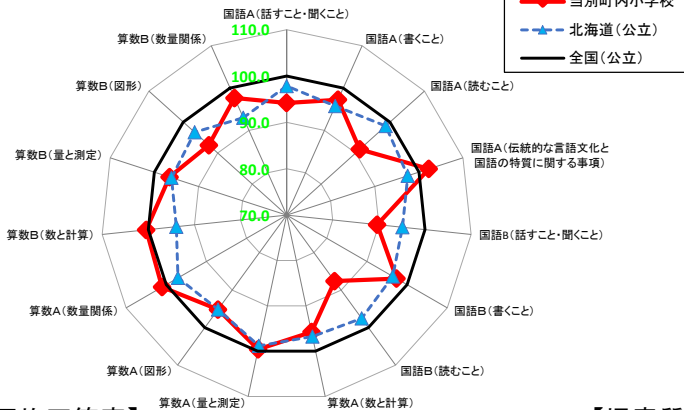


当別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2、児童数:118名)

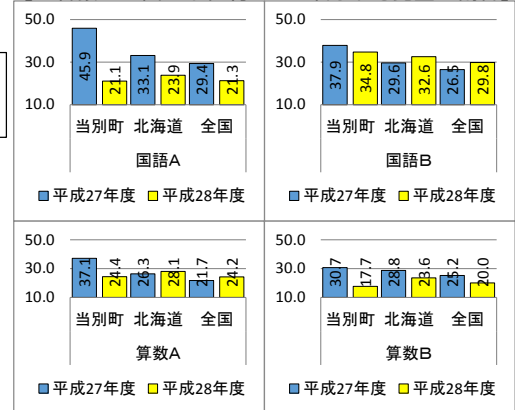
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

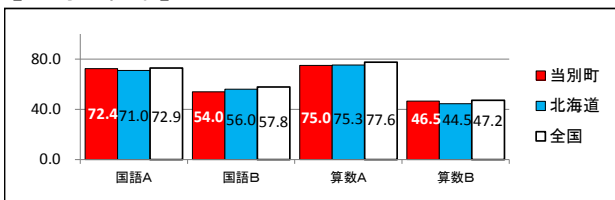


【正答数が全国の下位約25%に含まれる児童の割合】

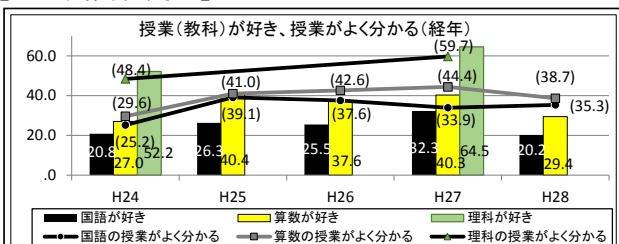


注)全国の下位約25パーセントに含まれる児童の割合を示したグラフ

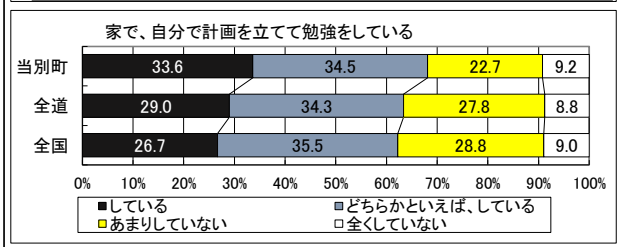
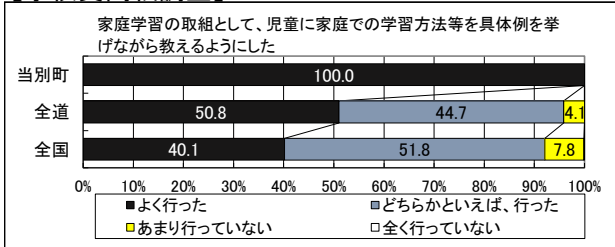
【平均正答率】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項」で全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、「数量関係」、Bでは、「数と計算」で全国を上回っている。 ○ 前年度に比べ、すべての教科で改善が見られ、全国と差がないことから一定の定着が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育の取組やICT機器の効果的な活用など、授業改善を推進したことにより、すべての教科で改善が見られ、下位約25%に含まれる児童の割合が減少したと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業(教科)が好き、授業がよく分かる」と回答した児童の割合が、平成24年度と比べて増加している。 ○ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校では、児童に対して家庭学習に関する取組方法の具体例を挙げながら指導しており、児童も学校の指導に基づいて自ら計画を立てて勉強をしていることがうかがえ、家庭での学習習慣が定着しつつあると考えられる。一方で約3割の児童が計画を立てて勉強していない状況が見られることから、適切な指導や放課後学習への参加を促すことが必要であると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている。 	

【当別町の学力向上策】

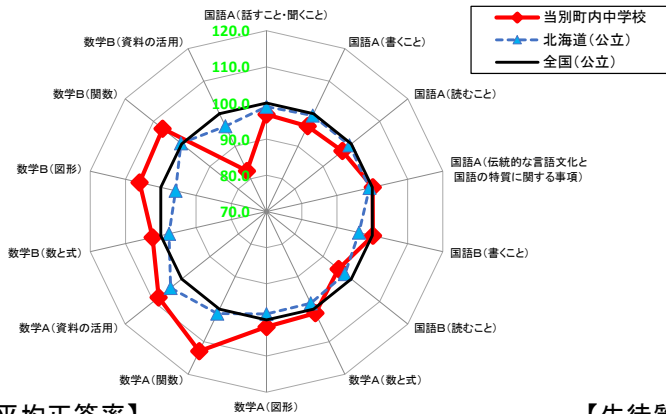
＜学力向上の基本方針＞

- ◎ 教員研修
 - ・ ICT機器の活用研修
 - ・ 一貫教育推進講師による指導
 - ・ 各種研修や校内研修への指導助言
- ◎ 指導方法工夫改善
 - ・ TT(チームティーチング)による指導、習熟度別少人数指導の拡大
 - ・ ICT機器の活用
 - ・ 小中連携による授業方法の共通化
- ◎ 児童への支援
 - ・ 長期休業中の学習サポート
 - ・ 土曜学習、放課後学習の実施
- ◎ 一貫教育の推進
 - ・ 小中9年間を見通したカリキュラムの実施
 - ・ 一貫教育推進講師の配置
 - ・ 小中相互の乗り入れ授業の推進

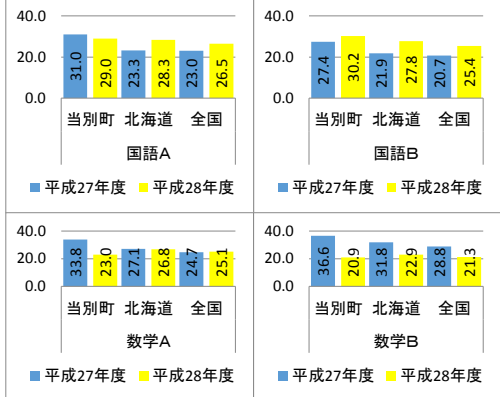
当別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2、生徒数:153名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

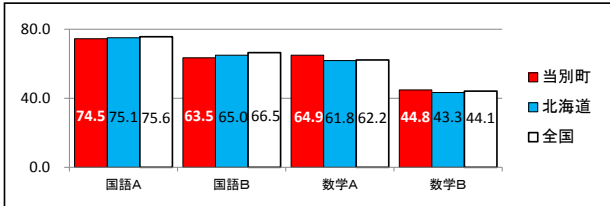


＜正答数が全国の下位約25%に含まれる生徒の割合＞

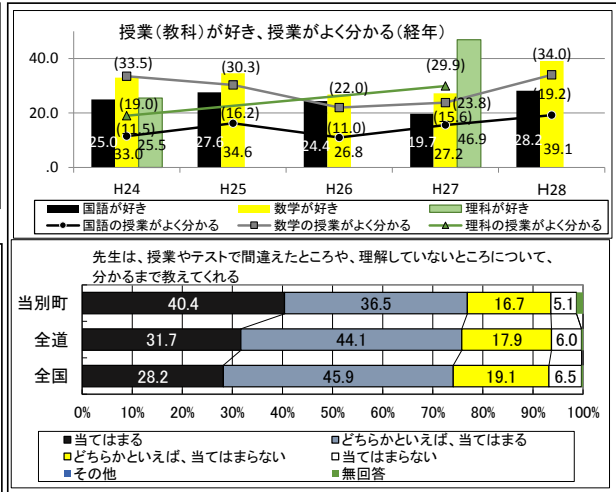


注) 全国の下位25パーセントに含まれる生徒の割合を示したグラフ

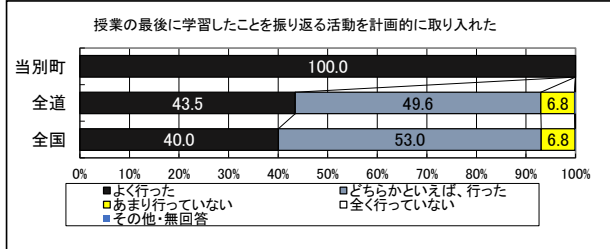
【平均正答率】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学A・Bでは、全国を上回っている。 ○ 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項」、Bでは、「書くこと」で全国を上回っている。 ○ 数学Aでは、全ての領域、Bでは、「数と式」、「図形」、「関数」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育の取組やICT機器の効果的な活用など、授業改善を推進したことにより、すべての教科で改善が見られたと考えられる。 ○ 数学の指導において、習熟度別少人数指導やTTによる指導、SATや地域人材を活用して複数で授業に関わり、個に応じた指導の充実を図ったことにより、「授業がよく分かる」と回答した生徒が増えたと考えられる。 ○ 学校で学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、生徒質問紙調査での「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が増えたと考えられる。このことから、「授業(教科)が好き、授業がよく分かる」となり、生徒自身の学習に取り組む意欲の創出につながっていると考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業(教科)が好き、授業がよく分かる」と回答した生徒の割合が、昨年度より向上している。 ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り組んでいる。 	

【当別町の学力向上策】

＜学力向上の基本方針＞

- ◎ 教員研修
 - ・ ICT機器の活用研修
 - ・ 一貫教育推進講師による指導
 - ・ 各種研修や校内研修への指導助言
- ◎ 指導方法工夫改善
 - ・ TT(チームティーチング)による指導、習熟度別少人数指導の拡大
 - ・ ICT機器の活用及びデジタル教科書の導入
 - ・ 学校独自の放課後講習、放課後指導
 - ・ 小中連携による授業方法の共通化
- ◎ 生徒への支援
 - ・ 長期休業中の学習サポート
 - ・ 土曜学習、放課後学習の実施
- ◎ 一貫教育の推進
 - ・ 小中9年間を見通したカリキュラムの実施
 - ・ 一貫教育推進講師の配置
 - ・ 小中相互の乗り入れ授業の推進